

# 「くしろロコサイクルプロジェクト」活動紹介／サイクルツーリズム推進へ新たな取組「ワンウェイ・サイクリングの実証実験」

2019. 8. 4 サイクル交流イベント市民向けモニターツアーより／くしろロコサイクルプロジェクト提供

(一財)北海道開発協会は、地域活性化のモデルとなる市民団体等の活動を支援しています。

今回は、平成30年度助成活動団体「くしろロコサイクルプロジェクト(代表:松岡篤寛氏)」を紹介します。本団体は、自転車を活用した地域づくり、観光振興、地域住民の交流促進を目的として、平成30年4月に設立されました。活動を通じて、釧路市およびその周辺地域における交流・関係人口の拡大に取り組んでいます。

北海道では、訪日外国人観光客の増加等を背景にサイクルツーリズムが注目されています。このため、地域の観光資源を活かしながら、サイクリングを楽しめる環境を高める目的で、「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」(平成29年2月設立)\*1は、道内に5つの試行ルートを設定しました。その一つに「阿寒・摩周・釧路湿原ルート」があります。

このルートに近接する「釧路阿寒自転車道」は、農村風景を楽しむことができ、山花リフレ(温泉)や阿寒国際ツルセンター等の観光資源があるのですが、地域情報の発信が不十分で利用者も多くありません。こうした状況を踏まえ「くしろロコサイクルプロジェクト」は、平成30年度の活動助成を受け、①釧路阿寒自転車道の課題整理、②サイクリングルートの活用検討、③阿寒市街、山花地区でのサイクル交流イベント、④公共交通を併用したワンウェイ・サイクリング環境整備実験に取り組んでいます。

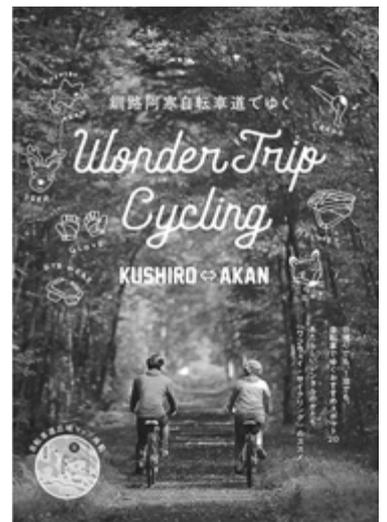
既に、『釧路阿寒自転車道でゆく-Wonder Trip Cycling-』のガイドブックを製作し、釧路市内の観光協会や宿泊施設、サイクルショップ、飲食店などに配布しています。また同プロジェクトではホームペー

ジ\*2を開設(7/13)し、自転車道周辺のおすすめスポット20や釧路阿寒自転車道広域マップ、4つのおすすめルートなど、各種情報発信を行っています。

今回は、「ワンウェイ・サイクリングの実証実験」についてレポートします。

この取組みは、観光客が手軽に自転車を利用できるように片道レンタルサイクルの仕組みを提供するものです。釧路市街と阿寒エリアに貸出・返却拠点を設け、さらに中間地点の山花エリアに返却拠点を設定しています(6/1~10/31の期間実施)。利用には、クロスバイクのレンタル料金が必要です。主な手順は、①貸出拠点で自転車を借り⇒②返却拠点まで自転車道を利用しサイクリング⇒③返却後は公共交通機関などを利用し次の目的地へ移動となります。

松岡代表の案内で、釧路市内の「サイクル ガレージ PAZ」でクロスバイクを借り、乗捨て返却拠点「道の駅 阿寒丹頂の里」に至る約30kmを走ります。出発後、釧路市観光国際交流センターでは、チラシやガイドブックの配置、また活動の協力体制について伺いましたが、ガイドブックは好評につき品切れでした。



ガイドブック『釧路阿寒自転車道でゆく』



貸出・返却拠点「サイクル ガレージ PAZ」の店内に並ぶ自転車

\*1 北海道のサイクルツーリズム推進に向けた審議を行うため、同検討委員会(事務局:国土交通省北海道開発局・北海道)が設立され、サイクルツーリズム推進体制の検討を行うため5つの試行ルート(「きた北海道ルート」、「石狩川流域圏ルート」、「阿寒・摩周・釧路湿原ルート」、「トカプチ400」、「富良野・占冠ルート」)を設定。

\*2 <https://www.kushiro-lococycle.com/>



「釧路阿寒自転車道」始点の風景（休憩場所や案内板が整備される）

幣舞橋の下を通り、新釧路川の鶴見橋を經由し、「釧路阿寒自転車道」（通称：湿原の夢ロード）へと向いました。この自転車道は、雄別鉄道（昭和45年廃線）の廃線跡に作られた約25kmの自転車道です。昭和53年の完成ですが、路面もキレイに整備され、始点には、道道835号「釧路阿寒自転車道」や「湿原の夢ロード」の標識、さらに自転車道の全体案内図や由来が記された看板も設置されています。

自転車道には、旧鉄道跡地を利用し5ヵ所の駅舎跡に休憩所が設けられ、阿寒へと続くなだらかな道の景色は、釧路市街の住宅地から徐々に湿原・田園・山岳風景へと変わっていきます。また自転車道の近傍には、旧岩保木水門や史跡北斗遺跡、湿原展望台、動物園、温泉など、気軽に立ち寄れる観光施設が多数あります。

鶴野休憩所には、雄別鉄道鶴野駅ホーム跡や、雄別鉄道と鶴居村管軌道が交差した際の橋台跡が残っています。廃線から約50年、遺構に関する看板は無く、知らずに通り過ぎてしまう場所も工夫次第では新たなスポットになると感じました。

湿原・田園地帯を抜け、山花エリアでは受入れ環境整備の一つである駐輪場へ。マルシェ山花やホテル山花温泉リフレには、サドル引っ掛け式のサイクルスタンドが設置されています。近年人気のスポーツ車（ロードバイクやクロスバイク）に乗るサイクリストの自転車にはキックスタンドがないものも多く、同種のスタ



雄別鉄道鶴野駅ホーム跡で松岡代表から説明を受ける

ンド設置によって、ホテル等での休息も歓迎されていると認識するそうです。

山花エリアから先は、山岳地帯となり自転車道を囲む様に樹々が鬱蒼とする中を走り抜け、自転車道の終点に到着します。そこから国道240号を3kmほど走り、乗捨て返却拠点「道の駅 阿寒丹頂の里」サークルハウス赤いベレーで自転車を返却し、公共交通機関で釧路市内に戻りました。

今回の片道レンタサイクルの体験によって、普段サイクリングをしない人、体力に自信のない人、いつもより少し長い距離を走ってみたい人、目的地の途中までサイクリングを楽しみたい人など、片道という選択肢が増える事で、気軽にサイクルツーリズムを楽しむことができると実感しました。

釧路地域は、自然豊かな地域性を活かし、近年注目されるアドベンチャー旅行など様々なプロジェクトが推進されています。今年5月には、欧米で人気の体験型観光に関する国際会議「アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット」(ATWS)<sup>\*3</sup>の2021年北海道誘致を鈴木知事や釧路市長らが表明、地域経済への起爆剤としても期待がされています。

こうしたATWS誘致によって増加が期待される訪日外国人観光客なども見据えながら、片道レンタサイクルの実用化に向けた利用環境整備を進め、今後のサイクルツーリズム推進、さらには釧路地域の交流・関係人口の拡大につながる活動となることを期待しています。



マルシェ山花とホテル山花温泉リフレにあるサドル引っ掛け式のサイクルスタンド



「道の駅 阿寒丹頂の里」で、レンタサイクルを乗捨て、次の目的地へ

<sup>\*3</sup> ATWSは国際推進機関「アドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション」(ATTA、本部・米国)が主催し、2005年から毎年秋に世界各国で開催。約60カ国から旅行会社、アウトドアメーカー、観光協会などの関係者約800人が参加し、4日間にわたってエクスカージョン(体験型見学会)や商談会などが行われ、誘致は地域経済の起爆剤としても期待されている。